

内容解説資料

巻頭

お金で困らないくらしのために～高校生の皆さんへ伝えたいこと

# じっきょう 家庭科資料

(通巻 83 号)

## みんなで家庭科を

No. 68

も く じ /

お金で困らないくらしのために

～高校生の皆さんへ伝えたいこと …………… 1

利他的行動とソーシャル・キャピタル …………… 7

サステナブルにファッションを楽しむには? …………… 13

家庭科教育支援セミナー報告レポート

「家庭科における評価活動 ワークショップ編」 …………… 19

## お金で困らないくらしのために ～高校生の皆さんへ伝えたいこと

ライフプラン&マネー教育サポート代表 CFP ファイナンシャルプランナー 戸田 節子

1. はじめに

岩手県では、県、教育委員会、岩手県金融広報委員会の三者の共催で、希望する高校向けに「高校生を対象とした金融経済セミナー」を実施しており、今年で15年目になります。私は、この間ずっと金融広報アドバイザーとして講師を担当しております。現在は毎年50校を超える高校の希望があり、卒業後の新生活において必要な「お金で困らないための暮らしの基礎知識」をテーマにお話をしています。受講した生徒からは「もっと早く知りたかった」「高校生のうちに知れてよかった」「社会人になっても勉強したい」という感想が寄せられており、好評を得ています。

以前から、一生に関わるお金の話を卒業時の1回だけでなく、もっと早い学年から少しずつ学べる機

会を作ることはできないだろうかと感じていたところ、高校の学習指導要領改訂（2018年告示、2022年度実施）に伴い、家庭科の先生方の研修会でお話する機会をいただき、昨年度から1年生、2年生と段階を踏んだプログラムを授業で取り入れる学校が出てきたところです。

私は2001年にファイナンシャル・プランナー（FP）となった際、この知識が高校卒業時にあれば人生はもっと違ったものになっていたはずと感じたことがきっかけで、家庭や学校で成長段階に応じてお金の教育を行うことを提案するワークショップや講演を行ってきました。幼児や小学生から始めるこづかいを使って金銭教育をスタートさせ、年齢が上がり、消費者としての経験が増えるにつれて金融、消費者、キャリア教育をプラスしていき、大学進学や社会人として自立する高校卒業時をゴール

◆金融教育の4つの分野と重要概念

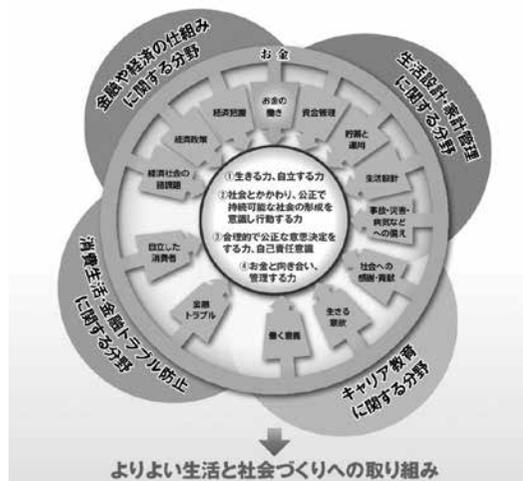


図1 「金融教育の4つの分野と重要概念」

出所：金融広報中央委員会「学校における金融教育の年齢層別目標改訂版」より

<https://www.shiruporuto.jp/public/document/container/program/mokuhyo/>

とするイメージです。

高校セミナーは、この段階を踏んだお金の教育のゴール直前の講座であり、過去に私自身が高校を卒業する前に知っておきたかった内容でもあります。将来の進路を決める重要な時期だからこそ知ってから選択してほしい、知っていたら違っていたのとは後悔することがない人生を送ってほしいと願います。

今回は、高校セミナーの学年ごとのプログラム作成のポイントと、実際にセミナーで高校生の皆さんにお話している内容の一部をご紹介します。

## 2. 金融リテラシーと金融リテラシーマップ

高校セミナープログラムのベースとしている資料を2つご紹介します。すでにご存知の方も多いと思いますが、平成25年に金融庁が設置した「金融経済教育推進会議」においてまとめられた報告書「最低限身につけるべき金融リテラシー（知識・判断力）」と、これを金融広報中央委員会が小学生から高齢者までの年齢層別に、体系的かつ具体的にまとめた「金融リテラシーマップ」です。

「金融リテラシー」は社会人として自立したよりよい生活を送るためのスキルとして4分野15項目からなり、4分野は「家計管理」「生活設計」「金融知識及び金融経済事情の理解と適切な金融商品の利用選択」「外部の知見の適切な活用」となっていま

す。高校生セミナーではもちろん、社会人向けのセミナーでも基本となるもので、必ずプログラムの中に入れてお伝えしています。

「金融リテラシーマップ」の小中高校生の部分は、学校における金融教育の年齢層別目標（図1参照）として取り組むべき項目がわかりやすくまとめられており、その内容は学習指導要領と整合性がとられ、学校で金融教育を行う際の基本として教科書に反映されています。

この2つをベースに、FPとして学んできたパーソナルファイナンスに関連する情報から、新社会人としてスタートする際に知っておいてほしい項目をプラスしてプログラムを作成しています。

## 3. 高校セミナープログラム作成の留意点

実施されている高校セミナーの多くは3年生の卒業前に1回限りの講座です。時間は学校の希望に合わせて授業1コマ50分または2コマ100分、ただ話を聞いて終わりにならないよう、短時間でも可能な限りワークやゲームを取り入れて講座に参加してもらうようにしています。参加型の講座は、高校生に限らずどの世代のセミナーでも参加者の興味や関心を引き、次の行動を起こす気持ちを生むことができる効果があると感じており、可能であれば2コマで設定していただくよう依頼しています。セミナーの開催時期は10月～翌年2月で、ほとんどの生徒は進路が決まった状態で受講しているため、就職者と進学者の割合を事前に把握した上でプログラムや講話の流れを学校ごとに変えています。ちなみに、50分で就職者が多い学校の場合のプログラム例は、金融リテラシー、家計管理、ライフプラン、働き方（社会保障）、クレジットカード、消費者トラブル、民間保険です。1回限りの講座の項目にしては少し多めですが「人生って色々大変だ!」と感じてもらい、卒業後に自分で学ぶ気持ちになってもらうためのきっかけづくりになればと考えています。

学年別の講座を行っている学校の場合は、3年間で行う3回連続講座としてプログラムを作っています。1年生は、ほぼ中学生と同じと考え、ワークやゲームを入れる場合でもルールや使う言葉をわかりやすく、お金の管理の経験がない人でもイメージしやすいようイラストやグラフを多く使用するようにしています。プログラム例としては、将来ひとり暮らしをすると仮定した家計管理、ライフデザイン、

ライフプランの基礎やキャッシュフロー表の作成、初任給、職業選択についてなどです。

2年生は、進路決定の時期ということで、就職か進学を判断する際に役に立ちそうな情報を入れています。人生のイベントに必要な平均的な支出額、職種別、働き方別の賃金平均、給料から引かれる税金や社会保険料の話から社会保障制度、働き方による収入や将来受け取る年金額の違い、学費や学生生活費、奨学金を利用して進学した場合の注意点などです。今年度は、令和4年4月からの成人年齢引き下げに伴い、契約やクレジットカードの使い方を追加しました。高校2年生は将来の社会生活を考える上で非常に重要な1年を過ごすこととなり、今後は2年生でのセミナーを希望する学校が増えてくるように思います。

3年生では、1、2年生で学んだ復習をしながら、人生でお金を増やすための3つの方法（働く、節約、運用）からそれぞれについてのポイントを中心にした内容で、卒業してすぐに気を付けてほしい消費者トラブル、民間保険の契約について話します。

学年ごとに開催している学校では、3年間で【高校生のうちに伝えておきたいこと】(表1)すべて

表1 【高校生のうちに伝えておきたいこと】

1. 金融リテラシー ※時間によって調整
2. 家計管理
3. 生活設計 (ライフプラン)
4. 働き方
5. 社会保障
6. 税金
7. 民間保険
8. 消費者トラブル
9. クレジットカード
10. 奨学金・ローン

を盛り込んでおり、繰り返しプログラムに入れている家計管理と生活設計については、少しずつレベルアップしながら話すようにしています。実際に行った学校では、前年の内容をよく覚えていて、楽しそうに授業を受けている生徒が多くみられます。1回限りの講座ではほぼない質問が出ることもあり、年1回だけの講座でも金融への興味関心を少しずつ高めてくれる効果があると感じています。

#### 4. セミナープログラムより

##### 「金融リテラシーを身につけよう！」

「金融リテラシー」の15項目にある資産形成商品については、株式、債権、投資信託、保険などという言葉が2022年度から家庭科の教科書に記載されます。100年時代を生き抜くための資産形成には必要な金融商品の一部ですが、資産運用は、黒字家計の習慣化と将来のための資金作りの必要性を認識し、金融商品の特徴やリスクを学んだうえで行うことが基本です。家計運営の経験がない高校生には、まず家計管理と生活設計の2分野が重要と考えセミナーの中心としてきました。今後は、金融商品を利用する際の注意点なども伝えていく予定です。

##### 【生徒へのメッセージ】

金融経済のグローバル化やIT化により、お金を稼ぐ、使う、貯める、借りる方法が増え、個人の選択肢が広がっています。これらのひとつひとつを理解して、自分にピッタリあったものを間違いなく選択しながら生きていくことはなかなか難しいことです。2013年に金融庁が公表した「金融リテラシー」は、今後の生活に必要な金融の知識や判断力を身につけるために何を学んでおくべきかがわかりやすく示されています。進学や就職した後もこの資料をも



とに自分で学ぶことを続けてください。これからの選択が自分の未来を決めます。金融リテラシーを身につけて、人生における希望をたくさん実現させてください。

### 5. セミナープログラムより

#### 「家計管理」

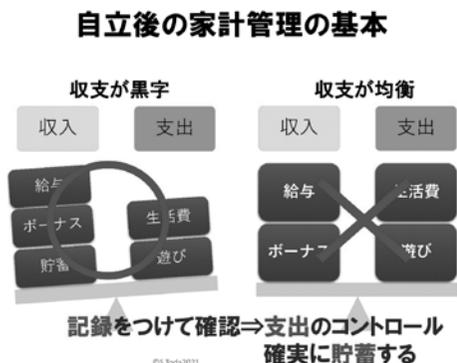
日本の多くの子供たちは、高校を卒業するまでは生活や学習に関する一切の費用は親が出してくれるという生活が一般的かと思われます。アルバイトをしている高校生もいますが、家計を助けるためというより欲しいものを買うためという理由で働いている例を多く聞きます。社会人となってひとり暮らしをするためにはいくら必要で、どんな支出があるのかをイメージできる高校生は少ないでしょう。

そこでまず、公的データより、大学生や先輩社会人（30代）独身の家計支出から費目や金額についての例を出します。社会人の支出については、消費支出と非消費支出の説明も加え、給料は全額使えないことについて触れます。

#### 【生徒へのメッセージ】

金融リテラシーの重要項目のひとつ目「家計管理」の基本は家計収支（収入－支出）を黒字にすることです。収支がゼロでも問題なく生活できるのは、保護者が助けてくれる学生時代までです。社会人になって自分の収入で生活するとなれば、不測の事態に備えてある程度貯蓄しておくことが大切です。家計簿などで収支を記録し、自分自身の消費傾向を確認して支出をコントロール（やりくり）し、黒字分はしっかり貯蓄するようにしましょう。家計管理を成功させるには、やりくりの他に家事能力もあるのと無いのとではお金の減り方が違います。卒

図 3



業前に基本的な炊事、洗濯、掃除はできるようにしておくようにしましょう。

### 6. セミナープログラムより

#### 「生活設計（ライフプラン）」

人生にはさまざまなイベントがあり、そこではある程度まとまった費用が必要になります。人生の三大支出と言われているのが「教育費」「住宅費」「老後の生活費」です。生徒には事前に、いつ、どのような場面で、どれぐらいの費用がかかるかを公的データの数字を参考に記入させて、人生にはトータルで大きな資金が必要であることを認識させます。イベントごとの資金は短期で準備できるものもありますが、三大支出については長期的な視点で計画を立てないと実現が難しいため、ライフデザイン、イベント表、キャッシュフロー表等のライフプランを作る際のツールを使いながら解説します。ここでは、持ち時間によってどれかを作成するワークやゲームを取り入れています。

#### 【生徒へのメッセージ】

金融リテラシーの重要項目の②「生活設計（ライフプラン）」は、将来の希望をかなえるための具体的な資金プランを立てることです。はじめに考えるのは「ライフデザイン」です。ライフデザインとは、結婚するかしないか、家を建てるか建てないかなど人生のざっくりした希望です。それをいつくらの予算で実行するかを検討するために作成するのが「イベント表」、人生の行事予定表のようなものです。家族がいれば家族分の希望とそれにかかる費用の見積もりをして予定どおりに実行に移した場合、将来の家計はどのような状態になるかをシミュレーションします。それを「キャッシュフロー表」といいます。

Aさんのイベント表から10年分のキャッシュフロー表を作成してみました（図4、5参照）。2年後に希望通りに車を購入した場合、貯蓄残高がマイナスで資金不足となり、その後も資金不足になりそうな年があることがわかります。イベントを実現させる方法としてはローンを組む方法がありますが、資金不足の度に借りに頼るのが当たり前の生活にならないかが心配です。この例の場合は、車を買うにしても予算を減らす、購入時期を変更する、ほかの支出を抑えて購入資金に充てるなど、複数の方法を検討してから決めるといいでしょう。車のような



## ⑥ みんなで家庭科を

策を考えておく必要があります。

一番の大きな違いは、加入できる年金の種類と受け取る年金額です。65歳まで正社員だった人は、厚生年金と国民年金の2つの年金に保険料半額の負担で加入でき、満額を受け取れますが、アルバイト社員が加入できるのは国民年金のみ、それも満額受け取るには1ヶ月ももらさずに40年間保険料を自分で納付する必要があります。ちなみに、国民年金保険料の月額額は16,610円（令和3年度）ですが、少ない給料しかもらえない働き方で全額納めるのはかなり厳しいかもしれません。

図7

### 働き方で変わる老後資金の自己準備額

65歳以上夫婦世帯の生活費 月27万円（2019年 総務省 家計調査）  
に対する家計のイメージ図



★1カ月当たりの公的年金受給額 全国平均  
厚生年金 145,865円 国民年金 55,809円

©S.Toda2021

職業や働き方を選ぶのは自由です。国民年金にしか加入できない職業もたくさんあり、それを否定している訳ではありません。重要なのは、自分が加入している社会保険制度で準備できる資金と、自分で作らなければいけない資金はどれぐらいかを認識したうえで、日々の生活を送りながら将来のための資産形成に向けて行動することです。社会保障制度、特に年金制度についてはしっかりと理解して社会に出てください。

## 8. セミナープログラムより

### 「民間保険」

卒業後に気をつけることとして悪質商法と保険契約を入れています。合法でもセールスに慣れていない新社会人には注意が必要と考えているのが保険契約です。すでに加入している社会保険である程度は補えること、高額療養費などの国の制度があること、民間保険に入りすぎて保険貧乏にならないことなどの注意喚起をしています。

### 【生徒へのメッセージ】

病気やけがで医療費がかかっても心配はいりません。給料からひかれていた社会保険が、治療費を7割負担してくれます。老後の生活資金をためなくてはいけないという営業員の言葉を聞いても慌てることはありません。給料が少ないうちは、厚生年金保険料を納め続けることに専念しましょう。老後の自分に仕送りをする前に、結婚、子育て、マイホームなどのための資金を貯めることが先です。

保険は、全財産をはたいても補えない出来事に対しての備えとして加入するものです。若いうちは、自転車に乗る人は他人を傷つけたときのために個人賠償責任保険、自動車を運転する人は任意保険が必須です。その他の民間保険は、本当に必要かどうかをじっくり検討したうえで契約するようにしましょう。

図8

### 知っておこう～民間保険と公的保険

生活のリスク	公的		民間	
	社会保険制度	生命保険商品	損害保険商品	
病気	健康保険★	○		
けが	★	○	○	
交通事故	★	○	○	
火災			○	
自然災害			○	
損害賠償			○	
老後の生活費	年金保険	○		
失業	雇用保険			

Q:医療費が高くなったら?

・一定額以上は掛からない制度がある(高額療養費)

Q:老後が心配...

・厚生年金に入れる仕事を選ぶ  
・貯金は民間保険以外で

⚠ 民間保険に入りすぎて生活苦にならないように!

©S.Toda2021

## 9. 最後に

私が高校生のうちに知っておきたかった暮らしにかかわるお金のことが、2022年度から授業の中で学べるようになることを非常に嬉しく思います。これから小中高と段階を踏んだお金の教育が生活経済教育として定着し、高校生でFP技能検定3級を受験することが社会に出る前の常識になる日が来ることを期待します。

今後も未来を生きる子供たちのために、家庭や学校でのお金の教育のススメを提案し続けていきたいと思っています。少しでも参考になる部分があれば幸いです。最後までお読みいただきありがとうございます。